

2012年9月14日

博報堂生活総合研究所、「子供の生活15年変化」調査結果を発表

～1997年→2007年→2012年、日本の子供の意識と行動はどう変わったか～

友達よりも家族、家の外より中― 身近な人や場所に重心をシフト
身近を固めて時代の荒波を乗り越える「アラウンド・ゼロ世代」の子供たち

博報堂生活総合研究所（以下、生活総研）では、5年前（2007年）と15年前（1997年）に行った小学4年生～中学2年生対象の「子供調査」を、現在の同世代の子供たちに実施し、この15年間における日本の子供たちの意識や行動の変化を比較分析しました。

前回調査から今回までの5年間は、リーマンショックや東日本大震災など、それまでに経験したことのない大きな出来事がありました。これらの出来事が、直接的、間接的に子供たちに与えたであろう影響を念頭におきながら、2000年前後に生まれた「アラウンド・ゼロ世代」（1997年4月～2002年3月生まれ）の子供たちの特徴を、15年間の生活変化をもとに、8つの観点から浮き彫りにしました。

[調査概要] ・調査時期：2012年2月16日～3月12日 ・調査地域：首都圏40km圏
・調査対象：2012年3月31日現在で小学4年生～中学2年生に在学する男女 計1200名

◆2000年前後に生まれた「アラウンド・ゼロ世代」の特徴 ～8つのポイント～

<家族との関係>

1. 「自分の世界」より「家族と一緒に」。家族との親密さが増している
2. 「友達」よりも「家族」。家族の求心力が高まっている

(※当資料の2ページ目でデータをご紹介します)

<友達との関係>

3. 友達との関係性は以前よりややドライに
4. コミュニケーションツールは「深さ」から「広さ」へ。メールは減って、SNSへの関心高まる

<生活圏>

5. 学びの場：学校を楽しむ傾向が高まるなか、塾に通う子供は減少
6. 遊びの場：「ゲームセンター」より「テレビゲーム」。遊びの場は「家の中」志向が増加

<その他>

7. 東日本大震災が身近な関係の大切さを痛感させている
8. 激動の時代を過ごす中でも、子供たちの幸せ実感は増加している

詳細なデータと分析（計21項目）、および全体を踏まえての生活総研の所見をまとめた「子供の生活15年変化レポート ～2000年前後に生まれた『アラウンド・ゼロ世代』を追う～」を、生活総研のWebサイト「生活総研 ONLINE」に公開しています。ぜひご覧ください。 <http://seiakatsusoken.jp/>

報道関係者様からのお問い合わせ：博報堂 広報室 山野・森 (03-6441-6161)
調査に関するお問い合わせ：博報堂生活総合研究所 山本・吉川 (03-6441-6450)

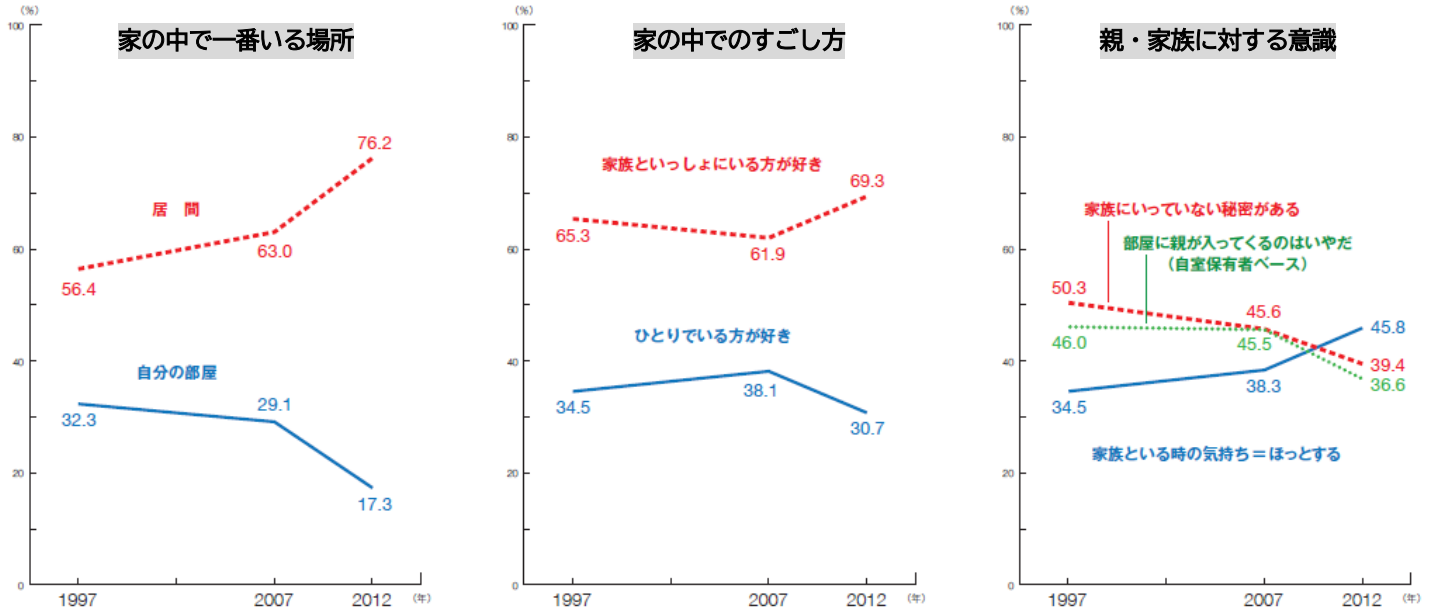
(参考資料1)

調査結果から～ <アラウンド・ゼロ世代の「家族との関係」>

今回の調査の中でも、特に象徴的だった「家族との関係」の変化を、データとともにご紹介します。

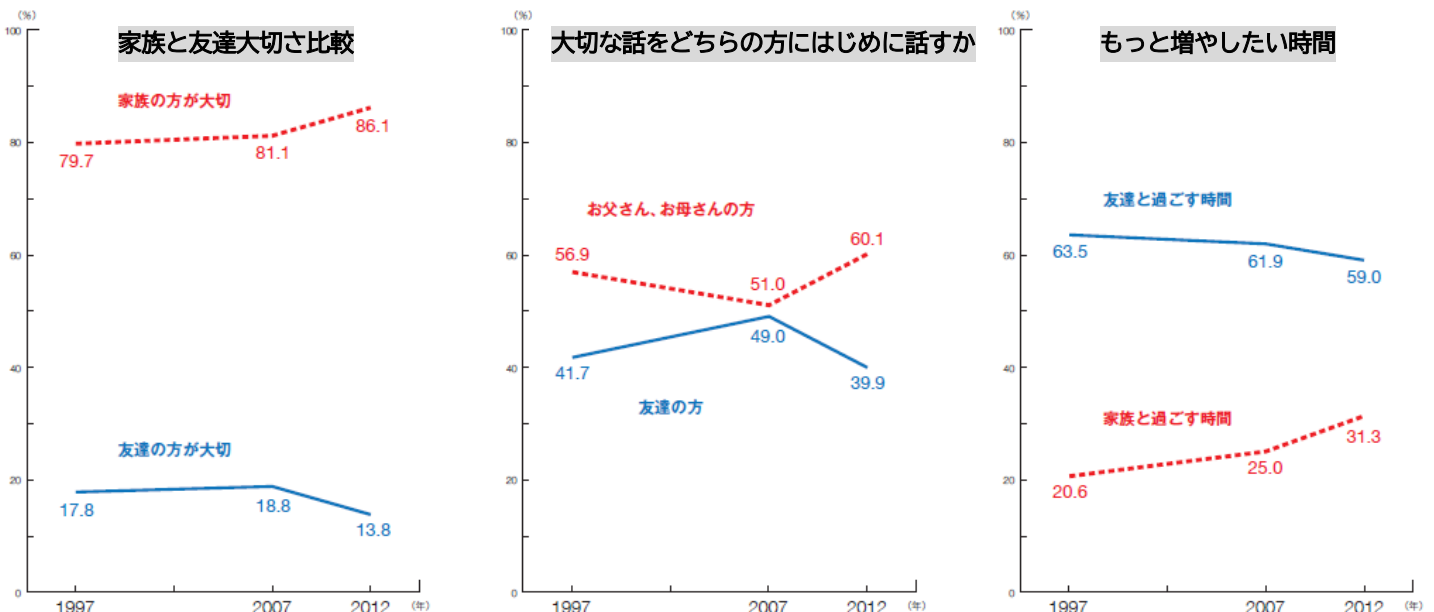
1. 「自分の世界」より「家族と一緒に」。家族との親密さが増している

子供たちが家の中で一番いる場所は、97年から07年の推移がさらに加速し「自分の部屋」がこの5年間で大幅に減少し、「居間」が大きく増加。また、97年から07年までは低下していた「家族といっしょにいる方が好き」が復調、「ひとりである方が好き」が減少しています。さらに、「家族にいていない秘密がある」、「部屋に親が入ってくるのはいやだ」といった一定の距離を保つ意識が15年間連続で減少し、逆に、家族という時は「ほっとする」との気持ちが増加しています。このように、家族との親密さが増しており、子供たちは自分の世界を確保することよりも、家族と一緒にいて安心できることを求めているようです。



2. 「友達」よりも「家族」。家族の求心力が高まっている

家族と友達の大切さ比較をすると、97年から07年まで横ばいだった「家族の方が大切」と答える子供が、ここ5年で増加し、友達は減少。さらに大切な話をはじめに話す相手として、97年から07年にかけて親が減少し、友達が増加したことでその差は縮小しましたが、今回の調査ではその差が拡大に転じました。また「もっと増やしたい時間」でも「家族と過ごす時間」が増加し、「友達と過ごす時間」が減少。このようにいずれの項目でも「家族」を重視する意識が上昇しており、家族へ気持ちがシフトしている様子、家族の求心力が高まっている様子が印象的です。



(参考資料 2)

レポート収録データ

「子供の生活 15 年変化レポート ～2000 年前後に生まれた『アラウンド・ゼロ世代』を追う～」の中でご紹介している 21 の調査項目です。それぞれ 1997 年・2007 年・2012 年の 3 時点と比較しています。

■家族との関係

1. 「自分の世界」より「家族と一緒に」。家族との親密さが増している

* 家の中で一番いる場所 * 家の中での過ごし方 * 親・家族に対する意識

2. 「友達」よりも「家族」。家族の求心力が高まっている

* 家族と友達大切さ比較 * 大切な話をどちらの方にはじめに話すか * もっと増やしたい時間

■友達との関係

3. 友達との関係性は以前よりややドライに

* もっと「知りたい」と思うこと：友達の話 * 友人関係に関する意識 * 親友が欲しい

4. コミュニケーションツールは「深さ」から「広さ」へ。メールは減って、SNS への関心高まる

* 携帯電話やパソコンでメールのやり取りをする友人がいる * SNS 参加率 * SNS 参加意向率

■生活圏について

5. 学びの場：学校を楽しむ傾向が高まるなか、塾に通う子供は減少

* 学校行事への感想＝楽しい * 塾への通学経験

6. 遊びの場：「ゲームセンター」より「テレビゲーム」。遊びの場は「家の中」志向が増加

* 家の中よりも、家の外で遊ぶ方が好きだ * 自宅以外でよく遊ぶ場所 * 今してみたいこと

■その他

7. 東日本大震災が身近な関係の大切さを痛感させている

* 東日本大震災の自分の変化：変わったと感ずることがある * 東日本大震災後に、自分の考え方や行動で「変わった」と感ずること（自由回答）

8. 激動の時代を過ごす中でも、子供たちの幸せ実感は増加している

* 幸福感 * 生活の楽しさ

■まとめ

アラウンド・ゼロ世代に見る「身近固め現象」 ～身の周りとの関係性を深めて、時代の荒波を乗り越える子供たち～

子供調査 2012

調査地域 首都40km圏

調査手法 訪問留置

調査対象 2012年3月31日現在で小学4年生～
中学2年生に在学する男女
(1997年4月～2002年3月生まれ)

サンプル数 1,200人

調査時期 2012年2月16日～3月12日

企画・分析 博報堂生活総合研究所

実施・集計 株式会社 東京サーベイ・リサーチ

子供調査 2007

調査対象 2007年7月1日現在で小学5年生～
中学3年生に在学する男女
(1992年4月～1997年3月生まれ)

サンプル数 800人

調査時期 2007年6月18日～7月9日

子供調査 1997

調査対象 1997年3月31日現在で小学4年生～
中学2年生に在学する男女
(1982年4月～1987年3月生まれ)

サンプル数 1,500人

調査時期 1997年3月7日～3月31日